

私は広島県の出身で、北海道には大学入学と共に住み始めました。大学卒業後は、縁あって現在の会社に就職したため、故郷を離れて約20年になります。子供の頃から自然が好きで、夢は獣医師、動物園の飼育係、自然公園のレンジャーなど動物に関する仕事に憧れていましたが、大学進学時点で方向性が少々変更になり、その流れに乗ったまま現在は植物調査を中心とした環境調査業務を主に担当しています。

建設コンサルタントの仕事は、構造物の計画・設計が主なものになると思いますが、土木とは反対側にいた自分が今の仕事に就いている意味を考えることがあります。河川構造物や砂防施設の計画では、環境調査を事前に行うことが増え、現地に入れば必ずと言っていいほど貴重な生物やすばらしい自然環境に遭遇します。この時、工事の実施と自然環境の保全という相反する課題に取り組むことが仕事であるのですが、毎回、頭を悩ませることになります。地域住民の安全な暮らしを守るための工事であることは理解しているものの、その一方で少なからず影響を受けてしまう生物や自然環境をどうやって保全するのか暗中模索の日々です。そして私の役割とは、人間と自然の間をとりもつコーディネーターのようなものなのかもしれない、思うことがあります。

この記事を書いている現在、地元の広島では大雨による大規模土砂災害が起こり、多くの人が犠牲になり、家や財産を失った方々がいらっしゃいます。今後、砂防施設等の計画・工事が増えてくるものと考えられますが、自然環境との折り合いのつけ方を自分なりに考えてみたいと思っています。

伊木千絵美 (いき ちえみ)

●建設部門(建設環境)

勤務先

株式会社北海道技術コンサル
タント 川づくり計画室



→次号は、大坂哲也さん(建設部門)

私は、幼少の頃から川で遊ぶのが大好きで、学生時代も暇さえあれば川に行って勉強していました。恥ずかしい話、勉強と言っても遊びのようなことが多かったのですが、魚や虫がなぜその場所を選んでいるのか等、実際に現場で見て感じたことに対して、自分なりに考えることを心がけていました。これは単に知識や情報を頭に詰め込むのではなく、自分なりの視点や考えも踏まえて、物の事象や性質を把握することが必要ではないかと考えたためです。関連書籍の内容が難しかったことも否めませんが、やはり現場で経験したことのほうが頭に残っていることが多い状況です。遊びつつも、現場で学ぶ重要性を実感できたことは、今の私にとって大きな財産となっています。

技術士の試験でも、白書や過去問に加え、現場で学んだ視点や考えを応用した記述ができたこと、□頭試験でもこれまでの経歴や経験した業務の問いについて、現場で身に付けてきた経験や知識を活かした解答ができたことから、遊びの経験も技術士に向けた一つのポイントになったと感じています。

しかしながら、技術士の合格に至るまでには、社内外における先輩技術士の皆様に数多くのアドバイス等をいただきました。また、技術的な指導から試験対策まで、論文の添削等も細かく対応していただき、大変お世話になりました。この場をお借りして、改めてお礼申し上げます。この恩返しとしては、何より技術士としての資質や技術力の向上を図ることが一番だと考えています。今後も、初心を忘れずに何事にもチャレンジする精神で、知識だけでなく現場を通じて経験をさらに積み、少しでも社会に貢献できる人材になれるよう精進していきたいと考えております。

鈴木 雅人 (すずき まさと)

●建設部門(建設環境)

勤務先

和光技研株式会社 技術部
環境計画課



→次号は、佐藤英世さん(建設部門)